

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070702677
法人名	有限会社 福の里
事業所名	福の里グループホーム結
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市八幡西区楠橋上方2丁目18-37 (電 話) 093-619-2970

評価機関名	(株)アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成20年5月27日	評価確定日	平成20年7月6日

【情報提供票より】(平成20年5月9日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年8月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 14人, 非常勤 4人, 常勤換算 6.25人	

(2) 建物概要

建物構造	木造造り
	1階建ての1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	29,000円		その他の経費 (月額)	(光熱水費) 14,000円
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (87,000円)		有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,400円			

(4) 利用者の概要(5月9日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	7 名	要介護4	6 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.7 歳	最低	68 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	佐々木病院／日高歯科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

福の里グループホーム結は、特養で勤務経験のある介護従事者が、「楽しくみんなで生活する場、地域の方々が生き生き出来る場を作りたい」との思いを抱き設立された。それ故、「入居者の暮らしをより豊かなものに」との工夫を随所に感じることが出来る。木造平屋造り2ユニット、2棟の建物は完全バリアフリーで、天窓からの光彩も程良い明るさで清潔感がある。ウッドデッキや和室が配され、ゆったりと過ごせるスペースが確保されている。運営姿勢も同様に、入居者のペースで、本人や関係者の声を聞き、相談しながら、物事を進めているという印象を受ける。周辺には、幼稚園・寺・消防団詰め所があり、交流の機会や防災面での相談など協力関係がある。また併設のデイサービスとの定期的交流や家族会の開催・職員アンケート実施による悩みや研修ニーズの把握等、内部での連携にも余念がない。職員は、入居者の一人ひとりの思いや意向にそった支援や、日常的な役割や楽しみの創出に努めている。食事も、出来合いの物を使用せず、入居者一人ひとりの好みや状態に応じた物が提供されている。実際に食すと素材の味が活かされ優しい味がした。最も印象深かったのは壁に掲示された短歌の数々である。これは、上の句を職員が考え下の句を入居者が考えるというもので、言わば入居者と職員の共同作品である。どの作品も含蓄とユーモアに溢れ、発案した職員の感性を感じることができる。今後の更なる展開が楽しみである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価では、「地域密着型」の主旨を踏まえた理念の整備とアセスメントについて、生活歴の記載が少ないことが指摘されている。前者については、「地域密着型」の主旨を踏まえた内容となっており改善している。後者については、様式の整備が完全になされるには至っていないが現在検討をしている状況にある。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員一人ひとりの意識も高まり、会議の中で活発に意見が出始めている。外部評価の指摘事項についても、職員間で話し合いを行い改善に向けて積極的に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議については、2ヶ月に1回実施している。議事録から、事業報告や出席者の質問へ真摯に回答している様子がかがえる。実例を挙げると、家族からのターミナルケアに関する質問を受け、医療行為の範囲について、市へ問い合わせを行い、報告を行ったことや消防署職員が出席し、災害対策について話し合いが行われたことが挙げられる。地域の方や家族へ出席の依頼を行っているが、定期的な出席には至っていない。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月、入居者一人ひとりの様子を『福の里便り』(入居者の写真・生活状況・行事の様子を担当者が記載)で伝えている。家族にも好評を得ている。また面会時や必要に応じて電話をする等、個々に応じた報告に努めている。年に2回家族会を開催し、会議前に食事を一緒にしたり、アンケートを実施する等、話しやすい雰囲気の創出や意見の収集に努めている。また面会時にコミュニケーションを図り、相談や意見を出しやすい環境づくりに努めている。意見箱についても設置している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣の幼稚園や小学校の行事を通して交流を行っている。また併設のデイサービスを利用する地域の方との交流や地域の方が三味線演奏等で訪れる機会もある。近隣の寺と防災面を始めとする協力体制について話し合いを開始し、主体的に地域との連携の機会の拡大に努めている。また、近日中に自治会に加入する意向がある。地域のゴミ置き場の清掃は職員が担当している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの趣旨を踏まえ、医療・福祉との連携を大切にする等、独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の唱和で終わらせることなく、日常業務や地域の方々との関わりを通して、職員間での意識づけや共有を図り、理念の実践に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の幼稚園や小学校の行事を通して交流を行っている。また併設のデイサービスを利用する地域の方との交流や地域の方が三味線演奏等で訪れる機会もある。近隣の寺と防災面を始めとする協力体制について話し合いを開始し、主体的に地域との連携の機会の拡大に努めている。地域のゴミ置き場の清掃は職員が担当している。近日中に自治会に加入する意向がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の指摘事項については、職員間で話し合いを行い、改善に向けて積極的に取り組んでいる。評価については、職員一人ひとりの意識も高まり、会議の中で活発に意見交換を行うなど評価結果を受けとめ取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回実施している。議事録から事業報告や出席者の質問へ真摯に回答している様子がうかがえる。地域の方や家族へ出席の依頼を行っているが定期的な出席には至っていない。今後は、家族や町内会長等の定期的な出席を実現し、より地域に根付いた会議の開催を期待したい。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ターミナルケアについての質問や嘔吐下痢症対策で相談し保健師の紹介を受ける等、必要に応じて相談を行い連携に努めている。「事故報告書」についても、適時報告を行っている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	現在、制度利用者はいないが、職員は、今後の必要性を認識し、外部研修への参加及び伝達研修を実施し、制度の意義の周知に努めている。今後、勉強会を予定している。		
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、入居者一人ひとりの様子を『福の里便り』（入居者の写真・生活状況・行事の様子を担当者が記載）で伝えている。家族にも好評を得ている。また、面会時や必要に応じて電話をする等、個々に応じた報告に努めている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回、家族会を開催している。会議前に食事を一緒にしたり、アンケートを実施する等、話しやすい雰囲気づくりや意見の収集に努めている。また、面会時にコミュニケーションを図り、相談や意見が出しやすいように努めている。意見箱についても設置している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動がもたらす入居者へのダメージについて理解し、ユニット間の異動は基本的に行っていない。止むを得ない異動・離職については、入居者の状態に合わせた説明を行い不安やダメージの軽減に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	採用にあたって、面接時にチームケア・協調性の大切さを話し、性別・年齢等を理由に採用対象から排除することはない。10代から60代まで幅広い年齢層を採用している。職員の社会参加や自己実現の機会拡大にも理解を示し、勤務については、可能な限り配慮している。また職員の健康診断を実施する等、体調管理についても留意している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	○人権教育・啓発活動	身体拘束廃止や虐待防止等に関し、会議の実施や資料の閲覧を行い、職員間での周知・理解に努めている。また、必要に応じて、市に問い合わせる等前向きに取り組んでいる。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	○職員を育てる取り組み	職員にアンケートを実施し、勉強したいことや悩み等の把握に努め、研修・勉強会に活かすよう努めている。新人については、外部研修への参加と、伝達研修を実施している。また職員間の親睦会を実施する等、コミュニケーションの充実を図っている。	○	事前アンケートにより職員のニーズを把握できるように努めている。その職員ニーズを活かす意味でも、研修計画を作成し、より効果的な研修の実施を期待したい。
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	○同業者との交流を通じた向上	グループホーム協議会に加入し、勉強会や他事業所への見学等、同業者と情報交換の機会を持ち、サービスの質の向上に努めている。現在では、他事業者間と気軽に相談や連絡が取れる関係を築いている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

15	28	○馴染みながらのサービス利用	なじみながらのサービス利用の重要性を理解し、それを目的にデイを併設している。実際、デイ利用者からの入居移行が多い。デイ利用時から、レクリエーションや行事等を通しての交流があり、なじみの関係が築けている。また入居前には、本人と家族一緒の見学を実施し、安心して入居していただけるように相談等に応じている。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			

2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係	季節の行事や外出先でなじみの場所を訪れ、思い出話を聞かせてもらう等、思いを分かち合ったり、共感出来る関係や機会の構築に努めている。また茶碗拭きやモップ掛け・花の水やり等出来る範囲での役割を担ってもらうことで、日々の生活に張りを出す工夫を行っている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握	日々の生活の中で観察に努め、会話の中で生活歴の聞き取りや思い・意向の把握に努めている。	○	アセスメントについて、ADL主体ではなく、生活暦等の把握も重ね、さらに本人像に迫れる方法を期待したい。
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画	本人・家族の意向を踏まえ、医師の意見書を参考に職員間で会議を開催し、介護計画を作成している。家族への説明も実施している。	○	現在、本人や家族を含めての会議の開催を検討している。その点を踏まえ、さらに必要に応じて関係者の意見が反映される会議の開催を期待したい。
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	○現状に即した介護計画の見直し	入居者に変化が生じた場合は、その都度、職員間で話し合いを行い、現状に即した計画を作成し対応しているが、変化が生じていない場合は、定期的な検討の場を設定するに至っていない。	○	入居者の状態に変化が生じていない場合についても、本人や家族・関係者との意見を踏まえての計画書の見直しの場を持つことが望まれる。
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援	入居者の希望や状態に応じて、受診の同行や墓参り・誕生日の外出等、一人ひとりの意向にそった支援に努めている。また家族の宿泊についても、受け入れ体制が出来ている。併設のデイサービスとの合同レクリエーションを行う等、交流の機会が多い。		
		本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援	本人・家族の希望を尊重したかかりつけ医の受診体制が整っている。定期受診については、基本的には家族対応だが、困難な場合は、職員が代行している。協力医療機関の往診が、月に1～2回あるが、入居者の体調に応じて、回数を増やす等、適切な医療が受けられるように支援している。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の対応については、現在、方針を検討中である。入居時や家族会等で、家族の希望・意見を聞き、対応出来るように努めている。今後は、看取りにおける医療関係者との連携や体制など、看取りの方針を定めていくことが求められる。	○	日頃から家族の考え方等を確認し、実際の看取りの時期になった時、医療機関との連携のもと、誰がどんなことをするのか等、話し合いながら、看取りの方針を検討していくことが求められる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居時、個人情報保護に関する事項について説明し、文書を渡すとともに、記録物等の管理についても留意している。言葉かけや接遇全般についても、一人ひとりを尊重し対応に努めている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課はあるが、その日の入居者の希望や状態に応じて、レクリエーションや散歩・日光浴等、臨機応変に対応している。		
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理については、調理専任の職員が行っているが、入居者は出来る範囲で、準備や片付けの手伝いを行っている。月に1～2度、近隣の公園で昼食をとる為の弁当作りやお菓子作りを行っており、その際は、買出しから調理まで入居者と一緒に行っている。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、一人ひとりの希望や体調に応じて実施している。基本的に週3回の13:00～16:00とであるが、希望に応じて毎日の入浴も可能となっている。また一人で入浴する(出来る)方については、職員がさりげない見守りを行う等の対応をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節の行事や入居者のなじみの場所を訪れる等の内容を盛り込んだ年間計画を立て、その実施に努めている。一人ひとりの意向や状態に応じ、書道・短歌・ちぎり絵・折り紙等を実施するとともに、役割についても、茶碗拭きやモップ掛け・プランター栽培等を出来る範囲で担ってもらっている。併設のデイサービスと合同レクリエーションを行う等、交流の機会を持っている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩や買い物を始め、昼食時に月に1～2回、入居者の希望をもとに外食に出掛けたり、近隣の公園で手作り弁当で食事をする等、外出の機会を楽しんでいただけるように努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害について、職員間で周知されており、日中、門扉・玄関は施錠されていない。入居者の安全確保の為、職員は見守りに努めている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防署立ち合いの訓練実施や地域の消防団が見学を訪れる等、連携体制が取られている。また消防署の指示のもと、救護マーク(入居者のADLに応じた色分けカード。救出時に役立つ)を各居室に掲示する等、日常的に対策が取られている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士と調理専任の職員が、栄養バランスを考慮し、1ヶ月単位で献立を作成している。入居者のリクエストに応じて臨機応変に変更する仕組みもある。出来合いの物を使用せず、入居者の状態に合わせた献立と調理がなされている。素材の味が活かされ、優しい味となっている。水分・食事チェック表に入居者一人ひとりの摂取量を記入し、全職員で適切な摂取状況を確認している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり	天窓からの程良い自然光と整頓された室内が明るい印象を与える。リビング・台所が隣接し、食事の準備の様子が肌で感じられ、家庭的な雰囲気がある。和室にはソファもあり、ゆったりとくつろげるスペースも確保されている。壁には、入居者の作品(書道・ちぎり絵・短歌等)が掲示され、季節感や暮らしの潤いを与えている。ウッドデッキもあり、ベンチでの日光浴やプランター栽培が楽しめる環境づくりに工夫がある。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮	各居室の入口には、入居者の希望に応じて、暖簾がかかり、窓には障子を取り付けられ、落ち着いた雰囲気がある。本人や家族の希望に応じて、好みや使い慣れた家具や寝具等が持ち込まれており、居心地の良い空間となっている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			